

組合員及びご近所のみならず、その後いかがお過ごしでしょうか。日頃よりみなさま方には病院の運営に関していろいろなご協力、ご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、この度病院だよりを約2年ぶりに発行いたしました。地域での班会などで活用していただければ幸いです。

## 障害児者リハセンター開設に向けて

出雲圏域では、障害をもつ子供さんがリハビリテーションを受けられる環境は非常に不足しています。

たとえば、障害児の児童デイサービスを利用できる施設は市内に一か所しかなく、行き場のない対象児の保護者の方からは「切り捨てられている」という声も寄せられています。

また、障害児が障害を軽減するためのリハを継続して受ける場も市内にはなく、このため、多くの保護者がリハを受けるために圏域外(松江、江津、県外)に対象児を長期入院(所)させるとか、遠方までの朝夕2回の送り迎えを余儀なくされてきました。

こうした現状から親子の心身負担は想像を絶するものがあり、当院にも「ぜひ障害児のための施設をつくって」と切実な要望が届けられてきました。

当院ではこれらの要望に何とか応えたいと考え、新たな建物を建設する資金的なゆとりはありませんので、やむなく現在の通所介護サービスを12月末で閉鎖し、来年4月から障害児者リハビリテーションセンターとして、右の表のような3つの事業を開始することにしました。

その際、障害児の療育やリハに関する経験があるスタッフの採用、対象児への安全で十分な個別療育やリハが提供でき

るような施設改修、児童用機器の購入などが必要で、一定の資金が必要となります。

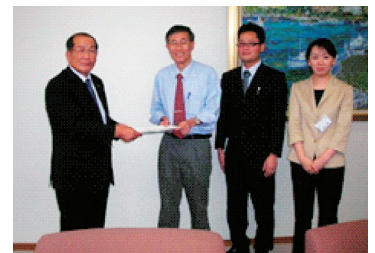
### 障害児者リハビリテーションセンター構想

1. リハ専門病院として、圏域内に不足している小児リハ体制の要望に応える
2. 親の会や自治体、その他関係機関との連携を築き、障害児者が住みやすいまちづくりをすすめていく
3. 圏域内の維持期リハを担う医療機関、介護事業所等における障害の評価やリハの進め方に関する相談機能を担い、圏域内のリハのレベルアップに貢献する

医療事業	障害者福祉事業	地域小児リハ支援事業
<ul style="list-style-type: none"><li>小児リハ外来</li><li>成人リハ外来</li><li>変形防止外来</li><li>リハ相談外来</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>児童デイサービス</li><li>ショートステイ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>施設、学校等への訪問指導</li><li>小児リハ保護者の会への支援</li></ul>

この点では、障害児への福祉サービス提供は公的性格の強い事業であることから、島根県と出雲市に対して支援をお願いしているところです。

(先日は、児童デイサービスへの助成を保護者の方と共に出雲市長に要請しました。)

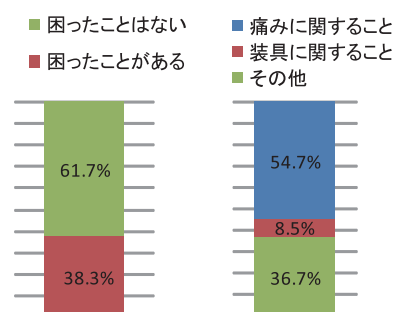


## 当院退院患者様計893人にアンケート調査実施

当院を退院された患者様のその後のフォローが十分できていないことから、退院後アンケート調査を実施しました。2005年2月の開院以降の当院退院患者様計893人に調査を郵送し、269名(30%)の方から回答が寄せられました。

その結果、返信のあった方の4割の方が「困ったことがある」と回答、その半数が「変形・痛みに関すること」でした。

この調査をきっかけに変形防止外来を開始し、「困ったこと



と回答した方に受診をしていただいています。

退院患者様が日ごろリハについて相談なさるのは、利用されている介護事業所であったり、かかりつけ医やケアマネさんですので、

こうした方々との連携で、「痛み」や「変形」に早期に対応することの重要性を認識する機会となりました。今後、退院後のフォローができる体制づくりを検討していきたいと考えています。

### 家庭に居られる看護師さん！あなたの出番を待っています！

今働いていないけど、「1週間に2~3日だったら働けるかな」「月に5日夜勤だけなら働いてみようかな」「1日3時間なら出てもいいかな」そんなお気持ちをお持ちの看護師さんいらっしゃいませんか？そんな方は是非相談にお越しください。あなたにできる看護の仕事があります。もちろんしっかり1日働ける方も求めています。ご近所にそんな看護師さん居られましたら是非ご紹介ください。

看護部長 大谷 梢

Email : [kango@izumoriha-hp.or.jp](mailto:kango@izumoriha-hp.or.jp)

# 各職場この1年のガンバリ！

## 3階病棟



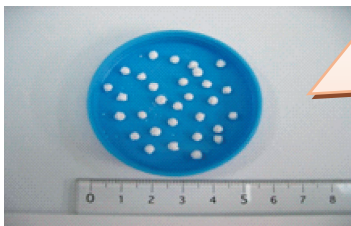
10月17日に3階病棟で運動会を開催しました。日頃のリハビリの成果を発揮し、パン食い競争、紙綱引きなど多彩な競技に参加していただきました。紅白に分かれて勝敗の行方を気にしながら真剣に玉入れをされている様子です。熱戦の結果、赤組が優勝しました。

## 2階病棟



四季折々にレクリエーションを計画し、患者様に楽しんでいただいています。今回は、ぜんざい作りをしました。患者様の楽しそうな表情にいやされます。

## 薬局



胃排出能試験用「バリウム・ボール」：胃の運動および排出能を目視で確認するために当院独自で作成しました。（詳細は鳥根医学Vol.29No.③ 41-44頁に掲載しています。）

## 医療相談室

この1年、入院患者様、ご家族様の心配事が少しでも解消できるように、また地域のリハビリ相談に親身に対応していけるよう頑張ってきました。



## リハビリテーション室



リハビリテーション室では現在、理学療法士(PT)26名、作業療法士(OT)16名、言語聴覚士(ST)6名、助手4名の計52名のスタッフが在籍しています。今年度は、磁気刺激機器(脳卒中などの後遺症による麻痺等を改善する為に頭に磁気を当てる機器)や、新しい低周波治療器：IVES(麻痺した筋肉に対し、最適な電気刺激を与えながら運動することで効果的な筋再教育ができる機器)等を導入するなど、先進的なリハビリテーションにも力を入れています。これからも患者様に満足して頂けるよう、スタッフ一同頑張ります。

## 栄養課



栄養課では、毎日患者様の楽しみの一つのお食事作りを頑張っています。

季節の行事食に加えて、患者様が誕生日を迎えられる月には「お祝い膳」を準備してお出ししています。

病棟で、レクリエーションを行われる際には手作りおやつも作っています。低カロリーで美味しく！を基本に、これまた一生懸命作っています。これは豆乳ゼリーの抹茶シフォン添えです。